

Stage6

What a Waste!

もったいない！

作・ジャンヌ・ウィリス

絵・デイヴィッド・サンプル

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話しましょう。

- ・表紙と裏表紙を見て、この本に書かれていそうなことをお子さんと話しましょう。
- ・本のほかのページをパラパラとめくって絵を見ましょう。
- ・どんなことがこのお話で起きると思うか、お子さんにたずねてみましょう。

<読んでいるときに>

自分のスピードで読めばいいよと、お子さんにいってあげましょう。

お子さんが単語を読むのにつかえたときは、次のようにうながしてあげてもいいでしょう：

- ・ことばを声にだしていってごらん。
- ・その文章のはじめにもどって、もう一度読んでみよう。
- ・絵を見るとわかるよ。

<ひっかかることば>

ここにあるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

could ～することができた

should ～すべきである

would ～するつもりだ

once あるとき、以前

thrown threw(投げる)の過去分詞

friend 友だち

ketchup ケチャップ

trousers ズボン

[p. 1]

もったいない！

作・ジャンヌ・ウィリス

絵・デイヴィッド・サンプル

[p. 2]

ミスター・ビッグはお金持ちでした。

古いものが好きではありませんでした。

新しいものを持つのが好きでした。

[p. 3]

あるとき、ミスター・ビッグは上着にトマトケチャップをつけてしまいました。その上着を洗うことができたはずなのに。

その上着を洗えばよかったのに。

ミスター・ビッグはそうしませんでした……

[p. 4]

ミスター・ビッグは新しい上着を買いました。もったいない！

[p. 5]

あるとき、ミスター・ビッグはズボンを破ってしまいました。

そのズボンをつくろうことができたはずなのに。

そのズボンをつくろえばよかったのに。

ミスター・ビッグはそうしませんでした……

[p. 6]

ミスター・ビッグは新しいズボンを買いました。もったいない！

<ブッチ>

<ブラダ>

<トニー>

[p. 7]

あるとき、ミスター・ビッグの車に泥がかかってしまいました。

その車を洗うことができたはずなのに。

その車を洗えばよかったのに。

ミスター・ビッグはそうしませんでした……

[p. 8]

ミスター・ビッグは新しい車を買いました。もったいない！

<スクラップ置き場>

[p. 9]

あるとき、ミスター・ビッグの家の屋根が雨もりするようになってしまいました。その屋根を修理することができたはずなのに。

その屋根を修理すればよかったのに。

ミスター・ビッグはそうしませんでした……

[p. 10]

ミスター・ビッグは新しい家を買いました！

新しいものはミスター・ビッグをしあわせな気持ちにさせました。

すくなくともミスター・ビッグはそう言っていました……

<売約済>

[p. 11]

ミスター・ビッグは新しい家のなかにすわっていました。
ミスター・ビッグはお金持ちで、新しいものを持っていました。
でもどうしてそんなにさびしいのでしょうか？

<ブラダ>

<ブッチ>

[p. 12]

ミスター・ビッグにも前は友だちがいました。仲のいい友だちでした。でも古くからの友だちになったとき、ミスター・ビッグは彼らを追い出しました。
もったいない！

[p. 13]

ミスター・ビッグには今はもう友だちがいません。ミスター・ビッグは新しい友だちを買いにでかけました……。でも、買うことのできないものがあります。

[p. 14]

「古くからの友だちをたいせつにすべきだったなあ」ミスター・ビッグは言いました。「ずっとたのしい日がつづいたはずなのに。ぼくは全部捨ててしまったんだ」

[p. 15]

家に帰る途中、ミスター・ビッグは一匹のイヌに会いました。そのイヌは泥だらけで、足を引きずっていました。でも、とても人なつっこいイヌでした……

[p. 16]

むかしなら、ミスター・ビッグはそのイヌを追い払っていたでしょう。でも、そのイヌはミスター・ビッグの目を見つめました……。ミスター・ビッグはそうはできませんでした。

[p. 17]

ミスター・ビッグはイヌを家に連れて行きました。えさをやり、ブラシをかけ、フンを片づけました。足の手当てをしてやったので、イヌは足を引きずらなくなりました。

[p. 18]

イヌはミスター・ビッグのベッドの上で眠り、ベッドを泥だらけにしました。
むかしなら、ミスター・ビッグは新しいベッドを買っていたでしょう……。でも今はもうしません。

[p. 19]

ミスター・ビッグは喜んで古いベッドと一緒に使いました。
「むだをせず、ほしがらず！」ミスター・ビッグは言いました。

[p. 20]

イヌは年をとりました。むかしなら、ミスター・ビッグは新しいイヌを買っていたでしょう……。でも今はもうしません。そのイヌはミスター・ビッグをしあわせにしてくれる存在でした。イヌはミスター・ビッグをともしあわせにしてくれて……

[p. 21]

……ミスター・ビッグは生まれ変わったような気がしました！

[p. 22-23]

じぶんでこのお話をしてみましょう。

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・どうしてミスター・ビッグはものを理をする代わりに捨てたのかな？
- ・なにがミスター・ビッグを悲しい気持ちにしたんだろう？ それはどうして？
- ・どうしてミスター・ビッグはイヌを飼ったのかな？
- ・この本を読んでどんな気持ちになった？

この話をまた読んでみようとお子さんにすすめてください。読む自信をそだて、つかえずに読めるようになります。

<ほかにすること>

この本のことをくりかえし話題にしましょう。

お子さんは、お金持ちだったら買いたい空想の家や車を絵にかくのもいいですね。